

令和3年度在宅医療・介護連携推進事業取り組み(上半期)

今年度第1回推進委員連絡協議会を6月25日開催いたしました。

新型コロナウイルスの影響が続いている中、会場参加(10名)並びにZOOM参加(10名)を繋いでの開催となりました。

推進委員長の牧野先生より、「皆さんとこのような形ではありますが顔の見える中で会議開催出来ることは誠に喜ばしく有意義です。事業推進に向けて積極的なご意見をお願いします。」と冒頭のあいさつを頂き協議がなされました。



第1回在宅医療・介護連携推進委員連絡協議会 令和3年6月25日いちき串木野市防災センター2階会議室、会場参加10名 リモート参加10名で開催となりました。
今年度の推進チームの活動内容に併せて、コロナ禍が収束しない状況を踏まえ、在宅医療推進の取り組みをどのように進めて行くかの協議を行いました。具体的な取り組みとしては、口腔ケアや栄養について介護施設等への支援サポートの必要性や、研修会による知識向上に向けた取り組みの重要性が提言されました。更に現状において感染対策についての一貫した知識レベルアップの必要性など地域の状況においての課題を踏まえた具体的な意見が出されました。また研修会等においては当面リモート開催を主に行っていく方向が提言されました。

令和3年度 前半	活動項目	内容
6月25日	推進委員連絡協議会	今年度第1回連絡協議会(リモート)開催 今年度の事業取り組み計画推進に向けた協議
8月4日	MCS講座	MCS利用者の初級、中級を対象として活用方法や基本的な使い方についての講話と個人的な相談対応を行う。
8月12日	推進チームリーダーミーティング	各チームリーダーと今年度活動推進に向けた協議並びにアクションプランについて情報共有を行う
8月	医療・介護資源マップ改訂版発行と配布	いちき串木野市医療・介護関係機関への配布 地域関係機関への配布
9月27日	いちき串木野版ACPチームミーティング	リモートと併用で開催 今年度のアクションプランを具体的に協議
9月29日	看護管理者の集まりチームミーティング	具体的な年間スケジュールを立て地域医療機関との連携構築を図っていく。情報共有ツールを活用し連携を図る

資源マップの配布

平成30年度にいちき串木野市の在宅医療・介護サービス資源について地域の方々に知って頂く事を目的に地域医療・介護資源について情報を掲載した”在宅医療と介護資マップ“を作成しました。
近年介護サービス事業所の新規開設や医療機関の閉業、診察時間等の変更など情報の更新が必要となり今年度改訂版を発行し、再度関係機関等に配布しました。地域の医療介護機関との連携や退院支援等に活用して頂いております。



MCS初心者の勉強会 R3年8月4日開催



MCS推進チームにより「今さら聞けないMCSの初心者勉強会」第1弾として開催しました。コロナ禍で大人数の研修会が厳しい状況を踏まえ小人数の勉強会を想定し企画しました。MCSで参加者を募り8名の応募がありました。内3名は日置市よりご参加いただきました。スマホのホーム画面から、コメント画面への移動操作、写真や文書添付の操作方法などスライドに移し自分のスマホ画面と合わせながらの手順操作など一連の流れを実際に操作しながら確認する事ができました。

活用出来る設定方法や、つながりの利用など日常の業務で活用できる設定方法を聞いた参加者から実際に利用している中での困り事や、疑問点など質問がありました。

- ・スマホで写メで取った書類を紙ベースにするにはどうしていくのか・・・
- ・PCで作成した文書をスマホから送る為にはどのように取り込んで送るのか・・・
- ・一般の人がMCS登録して、グループを作ることは可能か・・・

居宅介護支援専門員さんが業務上の活用法として、「介護保険証や負担割合書類等のデータ共有、介護サービスの担当者会議の日程調整連絡にかかる時間ロスの解消、多職種で情報を共有することで一貫したケアや支援ができる。」などの意見も聞かれました。

出先においてもスマホから書類を確認出来たり、患者さんの情報をその場から発信できるメリットもある。文書として記載が残るので再度確認できる。指示の間違いを防げる等の意見も出ました。

推進チームリーダーミーティング R3年8月12日に実施



各チームリーダーとミーティングを実施し、今年度の活動について協議し、チーム活動についての情報共有を図りました。

- ・コロナ禍が収束しない現状において、医療と介護の連携がなかなかスムーズに図れない。退院支援の情報共有、連携体制をしっかり構築する必要がある。
- ・コロナ禍の中、病院とケアマネとの思いのずれが生じている印象がある。双方のすり合わせが必要と思われる。(お互いの情報共有を図る機会が必要と思われる)
- ・退院支援連携において、医療機関内での連携不足を感じる。退院支援ルールの活用における医療機関における差のない対応、認識が求められる。地域医療機関が一貫した退院支援連携の充実を図る上で研修会等の実施が必要と思われる。
- ・歯、口腔、食のサポートチームではケアマネさんと連携しながら口腔、栄養に関する研修会の等を考えていく。

地域医療、介護現場の現状を踏まえた課題が提言されました。解決に向けた具体策について話し合い、意見交換や共有する機会を作っていくなど連携構築に向けて進めて行く事としました。